

『数学通信』27 巻 1 号（4 月 15 日締め切り），編集後記

矢崎 成俊（やざき しげとし）

====ここから====

『数学通信』前号の編集後記に，冬休み最後の読書はアインシュタインとフロイトの書簡本『ひとはなぜ戦争をするのか』だったと書いた．連日のロシアによるウクライナ侵攻報道を受けて再読▶1932 年，国際連盟はアインシュタインに「今の文明においてもっとも大事だと思われる事柄を，いちばん意見を交換したい相手と書簡を交わしてください」と依頼．アインシュタインは「人間を戦争というくびきから解き放つことはできるのか？」というテーマを取り上げ，相手にフロイトを選んだ▶フロイトはアインシュタインの提案と質問に対して，心理学的観点から戦争を防止するにはどうするかを推論するために，権力（＝暴力）の根源をアインシュタインに論じた．いわゆる愛と憎しみを理論的に昇華させた，生の欲動と死の欲動という不可分で消去不能な欲動がさまざまな現象を生むのだと▶平和主義者は心と体の奥底から戦争に憤りを覚えるが，その根底には文化が生み出す，戦争と対立する心のあり方，があるという．文化は知性を強め欲動を制御し，攻撃欲動を内に向かわせる．文化の発展を促せば，戦争の終焉へ向けて歩み出すことができる！ とフロイトは締めくくった▶翌年のナチス政権誕生以来，この往復書簡はほとんど公刊されず，日本語版は 2000 年に出版された．2 人の戦争論から 90 年経ても人間は戦争から解放されていない．文化の発展を待つよりも，戦争放棄，この一言で終わりにしたい．

====ここまで====（599 文字）